

No. 1577

# 水を大切に

——水道週間——

「見直そう暮らしと命を守る水」をテーマに、今年も6月1日から“水道週間”が始まりました。

東京、池袋のサンシャインシティでは、厚生省と東京都による中央行事が行われました。この日、東京都の1日水道局長を務めたのは、歌手の松本伊代さん。水を大切にと、集まった都民に呼びかけていました。

一方、葛飾区にある金町浄水場では、地元の小学生が見学を訪れ、「水道の水が出来るまで」の説明に、熱心に耳を傾けていました。

これからの暑い夏に向けて、限りある資源、貴重な水を大切にしたいものです。

# 東京イーストサイド物語

——有楽町線全線開通——

「東京イーストサイド」の新しい動脈、地下鉄有楽町線、新富町～新木場間が、6月8日開通した。

都心から夢の島へ12分、新線の開通は、沿線にどんな変化をもたらすか。

かつて、隅田川を船で渡った佃島。佃大橋の完成によって、渡し船は消えたが、江戸時代から続く漁師町のなごりは、今も僅かに残されている。渡船場跡の前に軒を並べる佃煮屋は、昔ながらにノレンを出している。しかし、都市再開発の波は、すぐそばまでおしよせている。軒下に、たんせいをこめた植木鉢が並ぶ路地。日陰に咲いた草花に足をとめて、よもやま話しに花が咲く。路地裏の人情は今も生きている。消え行く下町の姿を子供たちに伝えたいと、遠くからやってきたお年寄り。佃島の風景を懐かしむように、しっかりとスケッチブックに描きとめようとしている。家賃一ヶ月30万円、庶民には高嶺の花のマンション。40階建てのマンションが佃島の新しいシンボルになる日も近い。有楽町から僅か4キロ。しかし、都バスだけが交通のたよりだった陸の孤島、豊洲。地下鉄の開業で有楽町まで8分とあって、この街も再開発のブームにまきこまれそうだ。

東京湾を望むウォーター・フロントに造られた辰巳駅。海に近く「辰巳の森緑道公園」など、周辺的环境は整ったものの住民1万4千人の泣きどころはアシ。20年来の悲願がかなったとあって、通勤客の足どりも軽い。

めざすは東京のイーストエンド、終点・新木場駅。ここは670軒もの木材会社が軒を並べる木材の町。駅の看板も木なら、電話ボックスも木。駅前の公園では、深刻な木材不況をふきとばし、木場の活性化を計ろうと「新木場ウッドアート・フェスティバル」が開かれている。

僅か5.9キロ、一つの新線の開通には、多くの祈りと夢がかけられている。